

◎定例常議員会(36.5.23,土木学会会議室)出席者:沼田会長,富樫副会長,田坂,尾之内,東の各常議員,末森専務,岡本,阿部,小西,八十島の各理事。常議員52名(出席者5名,委任状34名,計39名)

議事:1)36年度会長,副会長,理事5名を選挙の結果,次のとおり当選決定。

会長 永田年君
副会長 山本三郎君
理事 尾之内由紀夫君
同 奥村敏恵君
同 金子収事君
同 長浜正雄君
同 松本繁樹君

2)昭和35年度事業報告(尾之内理事説明)を決定。3)昭和35年度決算報告(末森専務理事説明)を決定。4)通常総会に推薦の名簿員9氏を選挙決定。5)昭和35年度土木賞授賞者の報告を承認。

◎第1回理事会(36.6.19,第一ホテルにおいて)出席者:永田会長,沼田前会長ほか副会長,理事14名。議事:1)理事の会務分掌次のように決定した。

総務部 尾之内由紀夫,小西一郎,小倉宏三
経理部 阿部一郎,岡本東一郎
編集部 奥村敏恵,長浜正雄
調査部 佐藤肇,金子収事
研究連絡部 林泰造,松本繁樹

2)土木学会50周年記念事業の実施,およびその委員会の構成などの下相談のため次の幹事を決定した。尾之内理事,岡本理事,奥村理事,長浜理事,佐藤理事,末森専務の6氏。3)吉田徳次郎博士記念事業委員会設立について,委員長に平山復二郎氏を推すことにし,委員会の事業および構成は委員長一任とする。4)支部幹事長会議を開催すること。5)各大学の教室増強に学会として全面的に協力すること。

◎各種委員会

(1)第12回会誌編集委員会(36.5.23)出席者:斎藤,堀正副委員長ほか委員11名。議事:1)審査中原稿の審査報告。2)新規受付原稿審査委員の決定。3)依頼原稿について。4)次回講座について。5)委員交代の件を次のとおり了承した。

退任委員 後任
中村 慶一 永田 二生 建設省土木研究所
米沢 貢 針ヶ谷 健 東京都建設局橋梁課
足立 洪 加藤 信夫 日本道路公園調査役室
浅井新一郎 村田 泰三 建設省道路局一級国道課
吉田 方明 伊藤 謙一 通産省公益事業局水力課
斎藤 徹 森 岩治 国鉄建設局建設線課

地方委員
東北 後藤 幸正 松本順一郎 東北大学土木工学科
岩崎 敏夫 東北大学土木工学科
関西 田中 清 伊藤 富雄 大阪大学構築工学科
中四 網干 寿夫 南 俊次 中四地建

(2)水理委員会(36.5.26,名交会館において)出席者:伊藤委員長ほか委員,幹事18名。議事:1)水理委員会および水理研究会の内規について。2)水理委員会の構成について。3)水理委員会の運営について運営委員会(仮称)を設けること。4)運営委員会発足について準備を始めること。

(3)第1回八郎潟干拓水理特別委員会(36.6.2)出席者:

本間委員長ほか委員14名。議事:1)36年度検討事項について。2)水道断面について。3)その他。

(4)第3回構造物耐震設計研究委員会幹事会(36.6.6)出席者:岡本副委員長ほか委員および幹事19名。議事:1)地質調査について:①荒川橋梁ボーリングデータにつき検討。②馬入川橋梁につきボーリングを実施,③荒川橋梁には地震計(生研)を取付ける。2)耐震設計要項(案)について:前回に引続き耐震設計要項(案)4章より総括的に審議。

(5)第1回文献調査委員会(36.6.8)出席者:久野委員長ほか委員および幹事18名。議事:1)46巻7号登載文献抄録,目録について。2)文献カード作成料改正の件。3)鮮于委員の後任として 服部昌太郎氏 中央大学工学部を決定。4)新委員の紹介。5)その他。

(6)第1回会誌編集小委員会(36.6.9)出席者:斎藤,堀正副委員長,山門委員。議事:1)46巻6号口絵およびニュースの決定。2)46巻7号総特集号のページ建について協議。3)その他。

(7)第2回異形鉄筋設計研究委員会(36.6.12)出席者:国分委員長ほか委員13名。議事:1)前回議決により深谷委員より提出された次の設計,計算書につき審議した:①鉄筋コンクリートT形ばり道路橋,②鉄筋コンクリートT形ばり鉄道橋,③鉄筋コンクリート倒立T桁擁壁。2)次回は橋台および橋脚について同様に審議する。期日は深谷委員の方で資料がまとまり次第開催する。

(8)第6回グラウト専門委員会(36.6.14)出席者:国分委員長ほか委員および幹事14名。議事:1)前回決定したグラウト指針につき,訂正したものを事前に各委員に配布,意見を求めた結果報告。2)同指針および試験方法を逐条審議。3)同委員会で決定した事項を訂正したものを学会PC指針の後尾にのせる。

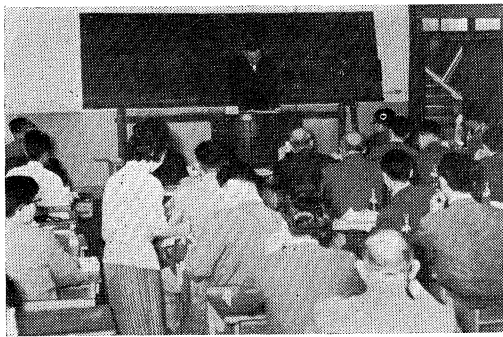
(9)第48回耐震工学委員会(36.6.15)出席者:那須委員長ほか委員9名。議事:1)インドの耐震規定について:Indian Standard Institutionより耐震設計の規定を作ったので検討してもらいたい旨依頼があったので中で土木に関係のある部分(Elevated Structure, Bridges, Dams and Embankment, Retaining Walls, etc)について審議。8月8日までに返事をとということなので次回に今一度検討する。2)第5回地震工学研究発表会について:今回のシンポジウムの特別講演に「都市域地盤調査について 資源調査研究所の鈴木好一氏」と「再び現在の東京に関東地震と同等のものが起こったらどうなるかについて,東京消防庁」の2件を考える。プログラムは次回講演申込が出そろってから作成する。3)地震工学セミナーについて:土木の耐震構造,耐震法規,研究機構,教育機構の現況を調査,同セミナーに報告する。4)今年度のトレーニングセンターについて:7月7日からトレーニングが始まるが土木は2月より前回同様始める。5)国鉄委託構造物耐震設計研究委員会について:今年で3カ年になるのでそのまとめということで耐震設計要項(案)を作っているがある程度まとまったら,当委員会にも意見を求める。

(10)土木技術者資格研究委員会(36.5.24)出席者:鈴木委員長ほか委員および幹事9名。議事:土木士法制定に当って,土木基準法の制定が必要であるが,土木基準法制定は現実の問題として不適当である。その理由を成文して一応理事会に報告したので各委員は書面で意見を出してもらおう。そのとりまとめは委員長に一任とする。理由の表現を建設省で考えてほしい。土木士法制定そのものは基準法制定とは別にしてとりまとめの措置を構ずることとする。

◎**コンクリートに関する懇談会** (36.5.28, 名古屋工業大学において, 出席者 90 余名)

1) 土木学会コンクリート委員会の現況: プレストレストコンクリート設計施工指針改訂の経過, 新しい JIS セメント規格, フライアッシュおよび異形鉄筋についての共通試験経過, などについて国分委員長が報告があったのち, コンクリート標準示方書も改訂の時期になっているから御意見を頂くよう要望した。2) 吉田徳次郎先生記念事業について: 募金された 2000 万円を基金として吉田賞の設置, 若い研究者に対する研究費の補助, などが計画されている旨国分委員長より報告あり。3) コンクリート関係の国際会議: 国際会議が開かれたこと および開かれようとしていることについて, 国分委員長より報告あり。4) ACI 日本支部設置について: 建築関係の人も加えて有志が一度東京で集まって相談した旨, 国分委員長より報告あり, 全員賛意を表された。5) 渡辺氏 (森組), 土本氏 (法政大), 清水氏 (愛知用水), 加賀美氏 (山口大) の御意見をもとにして質疑応答

コンクリートに関する懇談会であいさつする国分委員長



を行なったのち散会。

支 部 だ よ り

◎**中部支部**

1) **幹事交代**

- 新任 馬場 和秋 (建設省中部地方建設局企画室長補佐)
- ” 入江 但 (愛知県土木部道路課長)
- ” 片山 忠夫 (石川県土木部道路課長)
- 退任 小寺 隆夫, 高田 緑, 越村 敏雄

2) **評議員追加**

- 新任 青笹慶三郎 (日本道路公団 名神高速道路 第 2 建設局長)

◎**関西支部**

(1) **第 1 回幹事会** (36.6.26, 近畿地方建設局企画室長室)
出席者: 高津支部長, 米谷幹事長, 伊藤, 岡田(代赤井), 赤尾, 毛利, 中川, 小笠原, 水野, 打田(代安原), 宮崎, 星野, 大村, 石田の各幹事。

(2) **第 2 回幹事会** (36.6.27, 中央電気倶楽部) 出席者: 高津支部長, 米谷幹事長, 毛利, 打田, 星野 (代河盛), 大村, 岡田, 中川, 赤尾の各幹事

(3) **第 1 回商議員会** (36.6.27, 中央電気倶楽部) 出席者: 赤井, 大山 (代江本), 川島, 河盛, 篠原 (代利田), 長谷川, 三上, 水野 (俊), 山下 (代小合), 安藤 (代山口), 石原, 西村, 宮田, 中平の各商議員。三宅, 宮北の両常議員。高津支部長, 米谷幹事長, 毛利, 大村, 岡田, 中川, 赤尾の各幹事。

(4) **昭和 35, 36 年度商議員補選** (36.6.27) 芳内俊夫 (大阪府土木部道路課舗装係長) 前任者竹元千多留 徳島県土木部へ転出のため

7 月号は例年のごとく土木学会総会の特集号として, 本年度は工業発展の途上にある中京の中心地名古屋市において盛大に行なわれた土木学会総会の記事を, 会長講演, 記念講演, 土木学会賞受賞者報告, 総合講演の要旨, 一般報告などを取入れて限られたページ数に編集して皆様のお手元におとどけ致しました。現在わが国は数年来の建設ブームであり, それにともなって建設工学の発展がいちじるしいように外面的には見受けられますが, 他の工学分野にくらべてその進歩の過程は遅々としており, 根本的に一考を要するのではないかと思われま。土木工学自体もだんだんと専門分化されてゆき, それぞれの専門分野での研究が進められてゆくことも必要ですが, それと同時に各分野の知識を総括した応用面での土木技術の発展が片寄

たものにならないようにすることも必要なことであると思えます。このことは土木学会そのもののあり方についても各分野を総括してそれぞれの分野の情報, 知識を広く会員各位の方々が交換し合う場所とし, よきアドバイザーとしての役目を達せしめるような土木技術センターとしての事業を積極的に行なうことができるように会員各位の御協力を要望致します。

私ども編集部の者はいろいろと毎号の記事編集についての努力をしておりますが, 皆様の御要望を十分満たすまでにはなかなかゆかないと思っておりますので, 皆様の御意見, 御批判をどしどしお寄せ下さることを切望しております。梅雨期も過ぎ夏も盛りの候となり, 建設界も最盛期であり会員各位においては御多忙な日々を過ごされておることと思っておりますが, 暑さに向い十分に御自愛のほどを陰ながらお祈り致しております。【山門・記】

会 員 入 退 会 に つ い て (昭和 36 年 6 月 1 日より 6 月 30 日まで)

1. 入	会	185 名 (正 98, 学 85, 特 1 D 2)
2. 復	活	4 名 (正)
3. 退	会	51 名 (正 50, 特 1 D 1)
4. 死	亡	1 名 (正)
5. 転	格	20 名 (正→学 12, 学→正 6, 特 1 B→特 1 A 1, 特 1 D→特 1 C 1)

会 員 現 在 数 (昭和 36 年 6 月 30 日現在)

名誉	正員	学生員	賛助	特級	特 1 A	特 1 B	特 1 C	特 1 D	特 2	計	(増)
40	13 142	1 120	30	11	13	25	132	222	15	14 750	137

正員 吉田 彌七君 熊本大学工学部土木工学科教授 昭和 36 年 6 月 16 日死去 62 才